

矢後 彰一 (平成23年卒)

2019年4月から2022年3月までの3年間、虎の門病院の上部消化器外科において、主に食道手術の
手技・周術期管理を学ぶために国内留学という形で勤務させていただきました。

虎の門病院は、東京の中心部に位置し、より高度でより先進的な医療を目指している病院です。その特徴としては、新しい設備・医療機器を取り入れ、臓器別の高度な専門診療を行うために各領域のスペシャリストを擁している点であり、コロナの影響もあり減少しているものの、国内のみならず海外からの留学・見学も多く受け入れています。自身が勤務を始めた直後である2019年5月には新病院への移転もあり、最新の設備のもとで日々の臨床に携わることができました。

虎の門病院の上部消化器外科は、伝統的に食道手術に力を入れており、2019年秋には食道手術に対してロボット手術を導入することになり、現在ではその割合も増加傾向となっています。各科との連携も密に行っており、内科、放射線科、腫瘍科とともに、合同カンファレンスを継続的に実施してきました。加えて2020年10月には、それらのメンバーを中心に、コメディカルも含めて食道がん治療センターというのを立ち上げています。

胃癌の手術の際には技術認定医を目指した内視鏡手術の修練も実施させていただきました。技術認定医の資格を持った医師が科内に4名在籍しており、日常的にアドバイスを受けることができ、大変恵まれた環境であったと思います。

留学期間中の学会活動や論文執筆などの学術活動の機会も多くありました。虎の門病院の貴重なデータをもと

にこのような活動ができたことは大変有難いことでした。勤務されている先輩方や同僚も、多くがこのような学術活動に熱心に取り組んでおり、日々良い刺激を受けながら研鑽を積むことができました。

最後に、虎の門病院への国内留学を快諾していただいた遠藤教授や、度々相談に乗っていただいた医局長の小坂先生をはじめ、今回の国内留学期間中にお世話になった先生方には改めて感謝申し上げます。この留学期間で得ることができた知識や経験を、医局の後輩指導へと還元していきたいと思います。今後ともよろしく願い申し上げます。



千田 圭悟 (平成24年卒)

この度、遠藤教授をはじめ、医局長・医局の先生方・医局秘書の方々にお力添えを賜り、2019年4月から3年間、柏の国立がん研究センター東病院消化管内科 吉野孝之先生の下で化学療法の勉強とtranslational researchを含めた臨床研究を学ばせて頂きました。

柏の葉キャンパスは治安が良く、隣町の流山おおたかの森は人口増加率が全国一位の非常に暮らしやすい町です。国立がん研究センター東病院 消化管内科では、世界の最新エビデンスに基づいた消化管がん薬物療法の日常臨床をベースとして、新規併用療法の開発、さらに多くの新薬開発を行っています。留学開始当時は化学療法を少ししかった程度の知識しかありませんでしたが、大腸癌・胃癌を中心とした標準化学療法・最新の治療開発など、多くを基礎から学ばせて頂きました。研究としてはMSI-high消化器癌の免疫環境の解析など多岐に渡り、論文を書く機会にも恵まれ、Clinical cancer researchに2本のOriginal articleがacceptされたのは自信にもなりました。しかし、この留学で最も勉強になったのはスタッフの先

生のレジデントに対する姿勢です。誰も文句のつけようのない業績にも関わらず、決して偉ぶらずに我々レジデントと対等にdiscussionし、時に厳しく指導して下さる姿に感銘を受けました。「謙虚にして驕らず」「驕れるものは久しからず」この言葉を、深く心に刻んで生きていくことが必要だと、改めてこの国内留学で学ばせて頂きました。自分もこれから後輩を指導していく立場になっていくと思いますが、謙虚な姿勢を決して忘れることなく切磋琢磨していけたらと思っております。最後にこのような留学の機会をいただいた遠藤教授をはじめ同門の先生方にこの場をお借りして厚く御礼申し上げます。今後ともご指導ご鞭撻のほど何卒よろしくお願い申し上げます。

